
魔法戦記バカとForce

レフェル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法戦記バカとForce

【Nコード】

N9546Z

【作者名】

レフェル

【あらすじ】

魔法戦記なのはForceとバカとテストと召喚獣の二次創作の僕とちっさい幼なじみのキャラが出演するオリストーリです！

ブローグ？

ルヴェラ鉱山遺跡…

遺跡入口前にて

「ここが報告があつた遺跡なんだね。美波？」

「そうよ。アキ」

明久の友人であり仕事上のパートナーの島田美波と一緒に大穴の中へと歩を進めていく。

大穴の中をしばらく進むと、先行している発掘班が数人集まっている広い部屋に出た。

その先にはまだ、道が続いている。どうやらこの先が対象がある部屋らしい。

発掘班の一人が明久達に気づいたらしく明久達の傍に来て説明をしてくれた。

「ようこそいらつしやいました。吉井先生と島田さん、この先が対象があると思われる部屋です」

「分かった。君たちは後ろに下がって、僕達は先に進むから」

明久の指示で発掘班は頷いて後方に下がり、明久と美波は先に進んだ。

此処から先は安全が保障されていない。故に、進むには細心の注意を払う事になる。

「とりあえず、何が待ってるか分からないからね。細心の注意だけは払ってね」

「言われなくても」

明久がその旨を美波に伝え、美波もそれを聞いて表情を引き締める。ついでに首かけているインテリジェントデバイス「ステイード」にも指示を出した。

「ステイードも警戒を頼むよ」

『了解、アキヒサ』

覚悟を決め、美波と共に奥へと進む事にする。

……しばらく進むと、段々と視界が明るくなっていく。

それから更に歩を進めていくと、朽ち果てた研究所があつた。

「……薄気味悪いとこだね」

「そ、そうね」

『しかもそれもだいぶヤバイ方向の』

遠目では分からなかったが、近づいて見てみるとそれがとんでもない代物である事に気付く。

カプセルの中には奇妙なモノが浮いている。

「ステイード、これはまさか……」

『何かの実験ですね』

明久がステイードに言うとステイードは確信するように答えた。

「あ、アキ。こっちにきて」

「なんでこんなところに少女がいるの？」

美波が明久を呼ぶのでそちらに行くと小学生みたいな少女が何かの土台に貼り付けにされていた。

まるで成長が止まっているかのように……。胸だけは大人のようなサイズのようなだけ。

身長は139くらいかな？

キーン

少女に近寄ろうとすると謎の音とともに明久の目に痛みがきた。

「あッ！づ……っつ！」

「ちょ、アキ。大丈夫！？」

まるで焼けるような痛みで明久が目を抑えると美波が心配そうに聞いてきた。

腕に赤い輪みたいなのが巻きついてきている。

「ダメ、ダメだよ！こっちに来たら貴方も死んじゃうよ？」

培養液にはいつてる少女はとても悲しそうに言う。

少女の目には涙が浮かんでいた。

「死ぬ？死ぬってどーいうことよ」

「……それは」

美波が不機嫌そうに聞くと少女は俯いて口ごもる。
何か言いにくいことなのは確かだ。

「ま、詳しい話しは後で聞くわ。ここから出なくちゃいけないしね」

『それに関しては同感です』

そう美波が言うすとステイードも同意して明久に近寄ると立たせて。

「美波らしいな。あのさ、よくは分からないけど、ここから一緒に出ようよ」

「…でも」

明久が笑って言うつと黒髪の少女を見て笑顔で言った。
少女はそれに戸惑っていた。

「君に近づいたら死ぬなんてこと絶対ないと思うし。それに、一人でここにるのは寂しいと思うよ？」

「そうよ、死ぬなんてことはデマかもしれないんだから！」

明久は微笑んで手を差し出すと美波は同意するように言う。

「……………」ありがとう

少女はそれを聞いて嬉しそうに笑う。

すると明久の右手首と少女の手首に輪がでてきて、少女を張りつけにした台が壊れてしまう。

「あ！危ない！」

明久がそれに気づいて駆け寄り、抱きとめる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9546z/>

魔法戦記バカとForce

2011年12月29日21時53分発行